

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3391000118		
法人名	株式会社 成峰		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	岡山県新見市高尾232番地2		
自己評価作成日	平成23年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.pref.okayama.jp/page/detail-7669.html
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成24年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アピールしたい点 ・自然に恵まれている。畑があり野菜がつかれる。 ・市街地の住宅街にあり生活が地域と密着している。 ・職員が皆明るく優しい。 力を入れている点 ・利用者を閉じ込めないケア(地域の行事やイベントに参加する) ・家族との関わり(絆)を大切に増やしていく。 ・今できていることをしっかりしていただけるように創意・工夫をする。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護保険制度開始数拾年を経過しての事業所開始1年を迎えるグループホームです。他県ですがグループホーム運営の実績がある事業所です。経営者・管理者の介護に対する厚い思い高い目標に向かって努力されている事業所です。季節菜園の土作りから始まり、旬の野菜料理や保存食に至るまで(昼食メニューに自家製の白菜の漬物、おやつに干し柿)、利用者、家族、職員と絆を大切に支援が窺えました。男性利用者、女性利用者の方々の役割分担が自然に日常生活の中で行われており、時間配分にも創意工夫がみられました。利用者、地域の方々との協力体制もあり、これから地域密着型事業所として伸びてかれる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意味を職員全員が認識して地域の中でのふれあいを大切にしている。運営理念と方針は良く見えるところに掲示している。	運営基本理念①基本的な人権・尊厳・尊重②入居者が安心して家庭的な生活③生き甲斐を持って目標にある生活など定期的に月1回のミーティングで理念を掲げ実践の努力が窺える。	まだ開設して1年、職員のレベルに合わせた理念の実践に取り組んでいただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の状況から考えて、なかなか出向いていくことが困難な為、近所の方々、ボランティアを通してふれあいを深めている。月に1回ボランティアを計画している。	認知症の理解、感染予防等の研修と日常的に地域交流を深め高校生、近隣の大学の先生、ボランティアを通し地域の一員としての事業所の工夫がありました。(事例・・・雪下ろし、高価な鉢物装飾、手品などと様々である。)	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催される研修会や会合には出来だけ参加するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、偶数月に行っている。行事への参加依頼やホームで困っていることなど話し合い、意見や助言を運営や現場で実践している。	議事録を質問・応答と明確に記録し、地域との協力、行政との関わりがサービス向上に活かされている。	運営推進会議をより活用し、サービスの質向上に反映されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの出席をいただき、その時の助言、指導を参考にし運営。業務に反映させている。事故報告書の提出、相談に行くこともある。	運営推進会議を通し、積極的に相談、指導、助言を受け、市町村との協力体制を築いている。(介護職の経験年数が浅く介護基本等を踏まえ、定期的に取り組んでいる。・・・市の研修会・感染予防方法)	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為を理解するための内部研修を行っている。出入り口、玄関、門扉の施錠はしていません。身体拘束を行わないでもよいような工夫をするように努力している。	身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。職員の口調、声の高低、声掛け、動作等一つ一つ事例を取り上げながら内部研修に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、全職員認識しています。外部研修にも積極的に参加しています。内部研修(勉強会)も実施します。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度を必要とされる利用者の方はおられないが、管理者(職員含む)は今後研修に参加する。 内部で勉強会を行う。(社会福祉士)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約書、重要事項説明書の説明は十分行っているが、定期的に再度説明の機会を設け、ご家族に理解をいただけるようにする。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族代表、利用者代表に参加していただき意見や要望を聞いている。ご意見箱を設置し利用してもらっている。日常生活の中で、また面会時等意見や提案をいただき職員全員で検討し実行、実施している。	運営推進会議、意見箱、面会時等で意見や要望の把握に取り組まれています。小さな提案でも全職員で検討し早期解決を要する事項等を定め順次実行・実施に努力されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングや個人面談を通して意見や提案を聞くようにしている。その後は、意見交換、検討を行い運営に反映できるように前向きに受け止めている。	職員全員の意見が出るように 会議欠席者には前もって意見や問題点を聞く機会を設け、職員皆からの提案が反映できるよう工夫されました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に該当する職員には、研修に行くように勧めている。資格取得のための助成も行っている。時々、面談を行いストレスの調査個々の把握を行っている。サービスの質の向上を目的に介護職員処遇改善交付金の支給を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員とコミュニケーションをとる機会を作り、不満、苦情を聞くようにしている。 研修会、講習会、資格取得に順次参加するようにしている。報告書を提出し、ミーティングで発表し全職員に周知を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ケアマネージャーが出席しての市内での連絡会には参加している。 今後、同業者との交流を行い、サービスの質の向上につなげたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の申し込みをいただいた利用者の方には、事前に面接を行い、生活の状況、心身の状況、色々な方向への思いを把握しておく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人に対して、又ホームに対して家族が求めているものは何かを聞き、信頼関係を築くことに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急性や早急な対応が求められる方については、各関連事業所と連携をとり柔軟な対応を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その場の状況から本人の気持ちや思い、心の叫びなどを理解し受け入れさりげなく見守るケアを目指しているが実際には画一的なケアになっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所の時には、居室またはホールで本人とゆっくり過ごしていただく。 行事にはできるだけ参加をお願いする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方に会える機会を作っている。 時々車で友人の家に話に行ったりしている。 行きつけの散髪店。 ボランティア活動仲間のサークルに参加。	友人・家族と連携をとりながら、なじみの関係継続が出来るように努力されていました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけテーブルの椅子やソファでゆっくりとくつろいでいただく時間を作る。 どうしても衝突がある方については、席を変えたり座る位置を考慮する。どんな状況、場面でも声かけをしっかりとるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約を終了したケースには、通りがかりに立ち寄って家族の安否を確認したり声かけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の一人ひとりとゆっくり話しをしたり触れ合う時間を作るようにしている。 昔の話しをする中で本人の思い出などを聞き出すような機会を作るようにしている。	昔話などをよく聞き、触れ合う時間を充分に取りながら本人の思いの把握に努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりを大切に思う気持ちを伝え、安心して生活していただけるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや状況を考えながら入浴や昼間の臥床取り入れる。 毎日の生活の中での家事等を一緒に行うように段取りし一緒に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度モニタリングを行い、ミーティングで職員と話し合い利用者主体のケアを考えている。	介護計画作成者と職員と共同で現状に即した計画作成に努力されていました。	介護計画・モニタリングの意味 基本に立ち返り、管理者の下、職員の質の向上に努力していただきたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定例のミーティングや毎日の申し送りを通じて利用者の変化や状況などの共有をしている。 申し送りノート、受診ノートにより情報の共有、ケアの変更等の周知を「行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	画一的なサービス内容にとらわれず、柔軟な支援やサービスを行い多機能に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問理美容(地域の業者)を活用している。福祉ボランティアの会との交流を行っている。運営推進会議において意見を聞く。苦情受付箱を活用して幅広い方々より意見をいただく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医に定期的を受診している。協力病院の契約を行い緊急時の対応も可能。	協力病院、ソーシャルワーカーと連帯を築き適切な医療を受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在は看護職員は不在で、今後訪問看護の導入について調整を行っている。日々のバイタルチェックを行い、状態の観察をにより早期発見に心がけ、異状があったら受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合は病院側に情報提供書を提出している。定期的に病状を見舞うようにしている。退院時には家族と病院関係者と担当者会議を行い状況の共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについての方針はまだ検討中であり、今後家族との話し合いを行い要望や意見を十分把握したうえで対応していきたい。	最後まで本人、家族の意見を大切に本人本位のサービスを努めている。常に寄り添っている職員が気づき状態悪化、医療との関係の重要性を十分に把握した対応支援に努力されています。	開設して1年か課題は多いと思いますが、重度化に向けた対応を可能にするためにも職員の質の向上と、医療連携(訪問看護)の充実に努力をお願いいたします。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署による応急処置や初期対応の訓練を定期的に行うように計画している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施している。実際に火災を想定しての初期消火、通報訓練、避難誘導等消防署の指導のもと地域の皆様にも参加してもらって行っている。	地域の方の協力的参加もあり火災訓練が実施されています。参加者より非常ベルが室内には聞こえるが外部にあっても良いのではとの意見があり、地域との連携も十分とれていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特にトイレ誘導・介助や入浴介助の際には言葉かけには十分配慮している。 名前の呼び方には配慮している。 居室に入る際のマナーに配慮している。	一つの例として座位より立位した場合、そこで職員の一息ついて声掛けし確認して次の支援体制に関わるように努めている。(部屋に行く、トイレに行く、テレビの処に行く、一人一人を尊重する基礎教育をし職員質向上に努め丁寧な対応である。)	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴やその日着る衣類、飲み物等については本人の意思を重視している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人が一番良い状態で生活していただくよう配慮している。 日課として好むことをしていただく。 何をしたらいいのかわからない方には声かけをする。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で選んだものを身に着けるようにしている。 月に1回訪問理美容を頼み顔ぞりしてもらったり好みの髪型にカットしてもらっている。 お出かけの時には、口紅等勧めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者とメニューを決める機会を作る。 野菜の下ごしらえ、野菜切、味付け、盛り付け、食器洗い、食器拭き等一緒に行っている。 好みを把握し、できるだけ味付けや量等配慮している。	そば、うどん、カレーと利用者希望の献立・外食・おやつにたい焼きなど、楽しくバラエティーに富んだ食事の支援がなされている。自庭で作った季節の野菜で保存食・漬物等食卓に並び、楽しく食が進む様子が浮かんできました。自然に準備、片付け等自立支援に向けての様子が窺えました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	見た目と栄養バランス、量的にも考えて調理・盛り付けを行っている。 水分の摂取量については、飲み物に応じて湯呑を変えたりして雰囲気大切にしている。動きに応じて水分を摂取してもらう。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい歯磨き、義歯の掃除の履行 自歯のある方については、後で仕上げ磨きしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導、排泄介助の声かけには十分気を付けている。布パンツを使用されている方には、引き続き使用してもらえるように自立に向けて支援を行っている。	一人ひとりに合った自立に向けた支援が窺えました。特に声掛けしての気遣い誘導に努め、自立への改善に取り組んでいる様子が窺えました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症を持っておられる方については、かかりつけ医相談しながら対応している。一時的な便秘の方には、食べ物の工夫や水分補給、軽い体操など対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週6日入浴日を決め一人ひとりに声かけを行い出来るだけ希望に応じた回数入れるように管理している。時間帯も希望に添えるように配慮している。羞恥心、恐怖心には十分注意している。	安心して安全に入浴が出来るよう家族、本人の希望を取り入れ個別に対応し、体調に合わせた入浴支援である。入浴の嫌な方にもそっと寄り添った支援が窺えました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日中離床が無理な方については、毎食後短時間休んでいただいている。寝つきの悪い方には、薬に頼らず一緒に話をしたり飲み物を飲んでもらったりして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表のファイルを作り職員が内容を把握できるようにしている。変更時には、受診ノート、申し送りノートにて周知している。名前、日付を確認し手渡しで飲んでいただいている。バイタルチェックや表情等で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味などを活かした作業や手伝いが日課として楽しみながらできるように声かけ段取りを行っている。簡単な役割を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	できるだけ家族との絆を大切にもらう為に受診や外出をお願いしている。市内のスーパーへ時々買い物と一緒に行くようにしている。本人の希望では、ドライブを兼ねて用事をしに出かけるようにしている。	日常の支援の他、利用者家族、地域ボランティアの方も参加し、普段一緒に外出出来ない希望の場所を計画し、花見やバス旅行に出かけている。家族の方が車椅子を押し、その様子のスナップ写真を記念に渡したところ皆さんの笑顔を職員が拝見し、ほっとしたそうです。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣いとして現金を預かっている。数名の方には、家族の了解の上、現金を所持している。販売車がきて自分で見て自分で支払うことで喜びを感じておられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から電話をしてほしいと希望があった時には、その場で行う。手紙や年賀状のやり取りは行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール、居室内を明るい雰囲気にするように配慮している。壁の飾り、花等で季節感を取り入れている。レクレーションなどで時期の話をしている。	ホールなど共同空間は季節感を取り入れた明るい雰囲気作りがみられました。訪問時も床暖房で心地よく過ごせる工夫がされていました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、ソファ、マッサージ器、玄関前のベンチなどで自由にくつろいでいただける雰囲気を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方には、馴染みの品等持ってきていただいている。寝具、シーツ類は個人の希望を重視している。壁に家族や孫の写真等飾ったりと工夫をしている。	使い慣れた必需品で個性ある居心地よい居室作りがされており、熟睡できるよう、馴染みのある寝具の工夫も窺えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、本人はわかりやすい場所に物を置く。危険につながる物以外は自由に使用できるようにしている。		